

量子技術が支えるセキュアな 情報社会

「量子コンピュータが実現すれば、現在の暗号は解読されるだろう」
ピーター・ショアの研究を契機に量子鍵配送の研究は発展してきました。
現在、量子コンピュータ開発は国家機関や世界的IT企業を巻き込んだ熾烈なものとなっています。これと呼応するように、量子鍵配送には、さらなる安全性と、より高速で、より安定にネットワークで運用可能な技術が求められています。最前線で活躍する研究者の方々と、現状や展望について議論しましょう。一般講演でのご参加もお待ちしています。

招待講演者リスト

「量子が支えるセキュアな社会技術基盤へ向けて」

藤原幹生（情報通信研究機構）

「現代暗号と量子鍵配送への期待」

清藤武暢（日本銀行金融研究所）

「量子鍵配送開発、ネットワーク構築、アプリケーション紹介」

吉野健一郎（日本電気株式会社IoTデバイス研究所）

「量子鍵配送の長期安定性試験」

谷澤佳道（株式会社東芝 研究開発センター）

「量子鍵配送安全性の最新理論」

玉木潔（NTT物性科学基礎研究所）

「次世代量子鍵配送としてのRRQKD」

佐々木寿彦（東京大学量子科学研究センター）

「CVQKDと高速光通信との融合」

平野琢也（学習院大学）

日時

2017年3月14日（火）

13:30 - 18:15

会場

パシフィコ横浜

第64回
応用物理学会
春季学術
講演会

大分類3
光・フotonクス
分科企画
シンポジウム

企画

新領域

量子情報研究

グループ

世話人

藤原幹生（NICT）

根本香絵（NII）

仙場浩一（NICT）

小坂英男（横国大）

廣川真男（広島大）

辻野賢治（TWMU）